

## 東淀川の上田さん 家族テーマに写真展

# 亡き父母へ命ありがとう

両親を自殺で失った大阪市東淀川区の写真家、上田順平さん(36)による家族をテーマにした写真展「手紙」が、大阪市北区梅田2のニコンサロンbis大阪で開かれている。10年前に一度は作品化を断念した重い体験を、仲むつまじかった両親の姿を見つめ直し、自らの成長にも重ねることで、命の輝きが浮かび上がる組み写真として完成させた。15日まで。入場無料。

(本部洋介)

両親と暮らしていた1998年11月、母・あけみさんがマンションから飛び降り、49歳で亡くなった。更年期障害から不眠となり、うつ病を患っていた。父・保夫さんもショックでその10日後、自宅で命を絶ち、51歳の生涯を閉じた。

上田さんは当時21歳のフリーターで、タイ旅行中だった。



若い頃の両親の写真を手にする上田さん。2人は幼い上田さんを抱えている(大阪市北区で)

## 若き日の姿や娘誕生の様子 構成

2人の死を帰国後に知り、がらんとした自宅で途方に暮れた。当時から写真が好きだった。すぐに両親を題材に組み写真をつくらうと思ったが、「どうしても見た人が救われない作品になる」と諦めた。ところが、その後、1人で自宅にいと、父が描いた母の肖像画に囲まれて暮らしてきたことを実感した。そのうち、母がモデルとなった何枚もの油絵を、写真に収めるようになった。

新聞発送会社で働きながら2009年に妻、香織さん(37)と結婚。翌10年には長女の眞綾ちゃん(3)を授かった。出産の様子を撮影した。眞綾ちゃんを抱くと、「両親もこうして自分に愛情を注いでくれたのか」と、両親とつながったような気がした。

「今なら2人の死と新たな生が響き合い、より命が輝くような作品をつくることができる」。そう確信し、一度は断念した組み写真の制作を決

めた。

作品は、自宅に残っていた撮影者不明の両親の写真のほか、2人の死後に上田さんが撮影した自宅の様子や母の肖像画を捉えたもの、亡き母に似ているという眞綾ちゃんの写真など50枚で構成。両親に向け、上田さんが書いた手紙も添えた。

「家族の写真見てたら、ふたりみたいに幸せになりたいと思ってる。俺らの子供うまれて、今2才やねん。おかに似ててうれしいわ。俺、生きてて良かったわ。ふたりの子供にうんでくれて、ありがとう」

作品は、ニコンサロンJuna21で写真展を開いた若手写真家の中から1年に1人贈られる今年度の三木淳賞を受賞している。

上田さんは「昔は悲しくて見れなかった写真が、自分に新しい家族ができたことで、元気をもらえろ写真になった。今は2人が積み上げたような温かい家庭を築きたいと思わせてくれる」と話していた。

作品展の問い合わせはニコンサロンbis大阪(06・6348・9698)へ。